

編集後記

◇ 私が住む埼玉県川越市で今年、ウグイスの初鳴きを聞いたのは2月29日であった。また、家庭菜園でモンシロチョウの初舞いを見たのは3月17日である。桜は4月1日にはほぼ満開となり、3月下旬から4月上旬までの2週間にわたり花見を楽しむ。

初夏の訪れを告げるカッコウは、毎年5月13～30日の間に飛来し初鳴きを聞くことができ、気持を和ませてくれていた。その鳴き声も、2012年に止まり木となっていた大きな樺が伐採されたためであろうか、今は聞けない。生き物の自然な営みを大切に、静かに見守っていききたい。

◇ 一般財団法人いも類振興会の平成28年度第1回通常理事会は5月12日に、定時評議員会は5月26日にそれぞれ開催され、平成27年度の事業報告書・決算書を承認いただく。為替レートが円高に動くなどその変動も大きく、当振興会における事業運営資金の確保は厳しい状況にある。しかし、関係者の協力・支援を得て、平成28年度も引き続き当振興会の役割を着実に果たしたい。

◇ 恒例の平成27年度いも類講演会は、平成28年3月10日にいも類振興会と日本いも類研究会の共催により東京・赤坂の三会堂ビル石垣記念ホールで開催され、63名の方が来場。干しいも、ポテトチップスの試食も提供した。講演会終了後の情報交換会にも、34名の参加者を得て懇親を深める。

本誌No.128の特集は、「平成27年度いも類講演会から」と題して、その講演要旨を取りまとめた。なお、4名の講師のうち、森 一幸氏のジャガイモ新品種「ながさき黄金」の育成と特性については、諸事情があり追って掲載の予定である。

◇ 2016年2月25日、ばれいしょ加工適性研究会に出席した帰り道、北海道中札内村にある豆資料館・ビーンズ邸を見学した。この建物は、昭和27年に建築された旧農林省十勝馬鈴薯原原種農場（帯広市幸福町）の趣があった事務所棟を、昭和47年に解体し中札内村に移築したものだ。私は出張で昭和45年10月初めに、十勝馬鈴薯原原種農場を訪れている。当時、事務所の屋根は赤色系であったが移築に伴い青色系に塗り変わり、建物の内・外装によってその情景は一新されていた。しかし、事務机・椅子などの備品は移築前当時の状態のまま使用されており、よく見ると「農林省馬鈴薯原原種農場」の焼き印も確認することができ、いっとき昔に思いを馳せた。

本誌のNo.129から2か年計画で、「ばれいしょ原原種の生産農場」と題し、種苗管理センター本部を含む全国8農場巡りの連載を企画している。この連載が、ばれいしょ原原種生産の温故知新となることを願っている。（狩谷 昭男）

いも類振興情報 第128号

2016(平成28)年7月15日発行

定価 1部 500円

年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社